

# アイデア探しのためのフィールドワークの実施と考察

## Implementation and consideration of fieldwork for finding ideas

河村郁江

KAWAMURA Ikue

名古屋産業大学現代ビジネス学部 Nagoya Sangyo University, Faculty of Current Business

**Abstract:** The purpose of this study was to investigate the effects of understanding the historical and cultural background of the area surrounding the university on students aspiring to content creation in the Department of Information Business. To this end, fieldwork was planned in which students visited local historical sites and farmhouses. The knowledge gained about local history, culture, and industry was examined to see if it could be applied to their production.

**keywords:** Fieldwork, Content Creation

### 1. はじめに

本研究は、情報ビジネス学科の中でコンテンツ制作に関心を持つ学生が、大学周辺地域の歴史的・文化的背景を理解することが、制作のアイデアや制作プロセスの充実につながるかを確認するために行った。この目的のために、学生が地域の史跡の見学や農家の見学をするためのフィールドワークを計画した。まず、事前調査を行い、その後実際のフィールドワークに参加し、撮影やメモを取る。終了後には感想と写真の提出を課題とした。このような活動が、その後の制作や考え方に影響を与え、役立てられるかどうかを考察した。

### 2. 先行研究

地域調査を含む授業を通して、教育を行う取り組みはこれまでに数多く行われてきた。例えば、学生が考え課題を発見する力を育成するためにインバウンドや多文化共生について学ぶ研究(村瀬他 2015)。また、地域をテーマにしたワークショップがクリエイティブな制作にどのように適用されるかについても研究が行われている(須永、原田 2013)。地域の歴史や文化をより深く理解することが、与えられたコミュニティにとってより適切で魅力的な製品やサービスの開発につながるという仮説は合理的である。本研究では地域のフィールドワークを通して、地域

学習と制作を行うためにはどうしたら良いかについて考察する。

### 3. フィールドワーク

フィールドワークを行う前に、図書館やインターネットで行く場所の歴史的・文化的背景を調べる事前学習を行った。次に、フィールドワーク当日は、尾張旭に在住のふるさとガイド旭の中山正秋先生のご指導を受け、歴史の話を聞きながら、学校近辺の歴史的史跡などを巡った。終了後には感想と写真の提出を課題とした。このような調べ学習と、現地での学習と観察、観察の振り返りを行う事で理解を深めることが出来る。下記は 2022 年度のフィールドワークの内容である。図 1 はフィールドワークの様子



図1 フィールドワークの様子

子である。

**[フィールドワークの内容]**

1. 事前学習 図書館やインターネット（2、3年生）

課題：担当部分の調べ学習とまとめの提出

2. 歴史まち歩き1 新居周辺の散策（2、3年生）

内容：学校を出発～古民家～城跡～スカイワードあさひ～洞光院～学校

講師：ふるさとガイド旭の中山正秋先生

課題：撮影した写真とコメントの提出、ショート動画の制作と提出

**歴史まち歩き2 印場周辺の散策（3年生）**

内容：学校を出発～つんぼ石～一里塚碑～渋川神社～鳥居塚跡～印場城跡～良福寺～学校

講師：ふるさとガイド旭の中山正秋先生

3. 尾張旭市の農業見学（3年生）

内容：尾張旭市役所～いちじく農家1～いちじく農家2

講師：尾張旭市役所農業課の担当者、HM Farm、谷口農園

4. 番外編：尾張旭市の歴史散歩での撮影係

内容：尾張旭市で市民向けに行われた歴史散歩の撮影係として、有志の学生3名が参加した

**4. フィールドワークが生かされた作品**

その後、2年生のゼミはカードゲーム制作をグループ単位で行った。その中に「尾張旭カルタ」を作ったグループがあった（永田、木村、榊原）。その

グループは歴史まち歩き1で歩いたコースに再度行き、写真撮影を行い、カルタの画像として使用した。最終的に尾張旭の名所史跡がよくわかるカルタを完成させた。図2は制作されたカルタである。

3年生のゼミでは1から4までの全てのフィールドワークを実施し、毎回課題で写真や動画の提出を課題とした。図3は3年ゼミ生の動画や写真の一部である。その後3年生の中には卒業研究のテーマとして、尾張旭の史跡の動画を360度カメラで撮影し、何らかの事情で移動が難しい人に向けて魅力を伝えるためのコンテンツ作りを行うことにした学生（石田勇）や、尾張旭～瀬戸周辺の美しい景色の写真や動画を見せるための様々な方法を模索する学生（土井頌仁）など他にも数名が、今回行ったフィールドワークを活かした制作を行っている。



図2 フィールドワークがきっかけで制作されたカードゲーム



図3 3年生ゼミ生の動画や写真の一例

## 5. 学生へのアンケート

3年生のゼミ生に対してフィールドワークに関するアンケート調査を行った（回答人数8名 2023年4月）。「フィールドワークが良かったか」に関しては、とても良い1名、良いが4名で62.5%程度が良いと回答した。また、「行く前と行った後で尾張旭に対しての見方が変わったか」の質問には、完全に変わった、大きく変わったが3名で、わずかに変わったが4名、全く変わらないが1名であり、見方が変わった人は63.64%。また、「フィールドワークが自分の制作に活かせると思うか」への回答は、かなり活かせる1名、まあまあ活かせるが2名、少しは活かせるが4名、全く活かさないが1名であり、活かせると思った学生は63.64%であった。また、フィールドワークを活かした制作やその方法を提案されていたら良かったと思う人は75%となった。これらの結果から、フィールドワークを楽しみ、尾張旭の歴史について興味を持ったが、フィールドワークを制作に活かす所まで考えた学生は少なかったようである。制作にフィールドワークを活かすための方法や提案を最初に明示しておけば、制作に活かした学生が増えた可能性がある。表1はフィールドワークと制作に関するアンケート結果である。

## 6. 今後の課題とまとめ

アイデア探しのためのフィールドワークは、

2022年度から開始し、フィールドワークを活用した制作もいくつか作られた。また、地域の歴史などに興味が無かった学生が興味を持てるようになるという効果も確認できた。一方で学生へのアンケートの結果から、学生は制作をすることが目的のゼミに属しているが、フィールドワークと制作を関連付けることを思いつけなかった学生も多かったことが分かった。そのため、教員側から、フィールドワークに行くことの目的をはっきりと伝え、どのように活かすかの方法などを伝えることが必要であることが分かった。次年度はよりフィールドワークを活かせるよう、情報デザインの手法なども用いて行こうと考えている。

## 7. 謝辞

フィールドワークに協力頂き、学生に尾張旭の歴史を教えて頂いた、ふるさとガイド旭の中山正秋先生をはじめ、尾張旭市や学校で協力してくださった方々に感謝の意を表する。

## 参考文献

大学は地域社会に如何に関われるのか？－「地域社会論Ⅰ」の実践から考察する－（村瀬 慶紀、渡邊 聡、細井 和彦、富田 寿代 2015）  
 実践の振り返りからデザインの「知」を取り出す試み（須永剛司、原田泰 2013）

表1 フィールドワークと制作に関するアンケート

